古里の話題で盛り上がる

東京古川会 20周年記念総会・懇親会

大崎市古川出身者らでつくる在京組織「東京古川会」（塚田裕見子会長）の創立20周年記念総会と懇親会が11月23日、旧古川市時代からの姉妹都市、東京都台東区の上野グリーンパークで開かれた。会員や大崎市関係者、県関係の他の在京組織役員など約60人が出席し、10周年を迎えた大崎市や、ふるさと古川地域の話題で盛り上がった。



出席者で記念撮影

総会で塚田会長は、伊藤長市初代会長（現相談役、おおさき宝大使）の後を受け2代目会長に就いたことを説明し、「設立時から会をけん引した伊藤前会長の足跡に沿って会を運営していきたい」とあいさつ。伊藤長市相談役と寺嶋由已、片岡光明、片岡淳子の3副会長に感謝状と記念品を手渡した。

伊藤康志市長も、この日行われた同市10周年記念事業「お～さきでオ～ケストラ♪仙台フィル名曲コンサート」前の時間を使ってかけつけ、「会に加え、ふるさと納税などで多くの会員の協力に感謝したい。引き続き大崎市を応援してほしい」と祝辞。県東京事務所の吉田計所長（前県北部保健福祉事務所長）も祝辞に立ち、同会の飛躍を期待した。

また、首都圏大崎連絡協議会、同市三本木出身者の在京組織「すきです三本木」の両顧問を務める古川土地の早坂竜太社長が、大相撲の横綱白鵬関（おおさき宝大使）との交流について講演した。

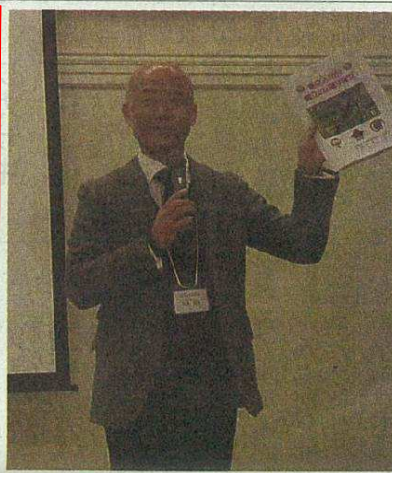
早坂社長は、白鵬関について「東日本大震災で被災した大崎市を何度も慰問し、復興や地域の盛り上げに尽力していただいた」と謝意を示し、8月に実施された夏巡業「大崎場所」も満員御礼だったことを紹介。「横綱白鵬・宮城野部屋大崎ファンクラブ」副会長兼幹事長として横綱と交流し続け、モンゴルの国民栄誉賞に相当する「労働英雄賞」授与式（昨年2月）に自身を



記念講演する古川土地の早坂社長

含む大崎市関係者3人が招待されたことも説明した。

また、大崎タイムスなど同市全体や古川地域の新聞記事をまとめた冊子も配布。ふるさとの様子を知ってもらいたいと考え、顧問を務める両会と同様、古川土地の社員総出で資料収集、編集、印刷にあたったことも披露した。講師謝礼を渡された早坂社長は「気持ちは頂戴する」とした上で、「活動費に役立ててほしい」とそのまま同会へ寄付した。



あいさつする塚田会長

懇親会では、11月3日付で制定された「大崎市民歌」を聞きながら会食。女子プロボクシングで世界3階級を制した古川出身の藤岡奈穂子選手も出席して4階級制覇への意気込みを語り、来場者から10万1000円余のカンパが集まった。元駐バチカン大使の鹿野軍勝さん（在京古高同窓会長）の講話、会員有志による踊りや歌なども行われた。

大崎タイムス〔平成28年11月12日(土)〕

サクラの名所復活へ

三本木 館山公園に30本植樹

大崎市の木が「桜」に制定されたことと、市誕生10周年を記念する植樹祭が6日、同市三本木の館山公園であった。「館山公園を復活させる会」(尾出利男会長)の会員など約30人が、手分けしてソメイヨシノ30本を植えた。

館山公園はかつて、サクラの咲く時期は夜にライトアップしたり、出店が出たりとにぎわっていた。そこで同会は、サクラの名所としてにぎわった館山を復活させようと、地元の住民らで2012年9月に発足した。

最初の植樹は13年11月に実施。住民の力で、清掃活動や木の手入れなどもしている。

2回目の植樹となるこの日は、会員と地域住民のほか、伊藤康志市長、大崎市議会の門間忠議長なども出席。伊藤市長は「3日にあった市誕生10周年記念式典で、正式に市民権を得た館山のサクラを、今まで以上に愛情を込めて育ててほしい」と語った。

参加者たちは、スコップを持ち、土壌改良材を混ぜた土を、高さ約3㍍の苗木に優しくかぶせていった。

同会は今後、3~4年に1回の頻度で植樹することにしており、尾出会長は「これまで以上に地域の人と協力し、環境整備と地域振興に取り組んでいく」と誓っていた。



ソメイヨシノを植える参加者たち

大崎タイムス〔平成28年11月11日(金)〕

古川東ＲＣ

職業選択の視野広げて

高校でキャリアセミナー

古川東ロータリークラブ（古川東ＲＣ、氏家英喜会長、会員数33人）主催の「キャリアセミナー」が4日、大崎中央高（佐々木哲校長、生徒数211人）であった。生徒たちは、会員らから仕事に対する熱意や働く意義などを聞き、職業選択の視野を広げた。

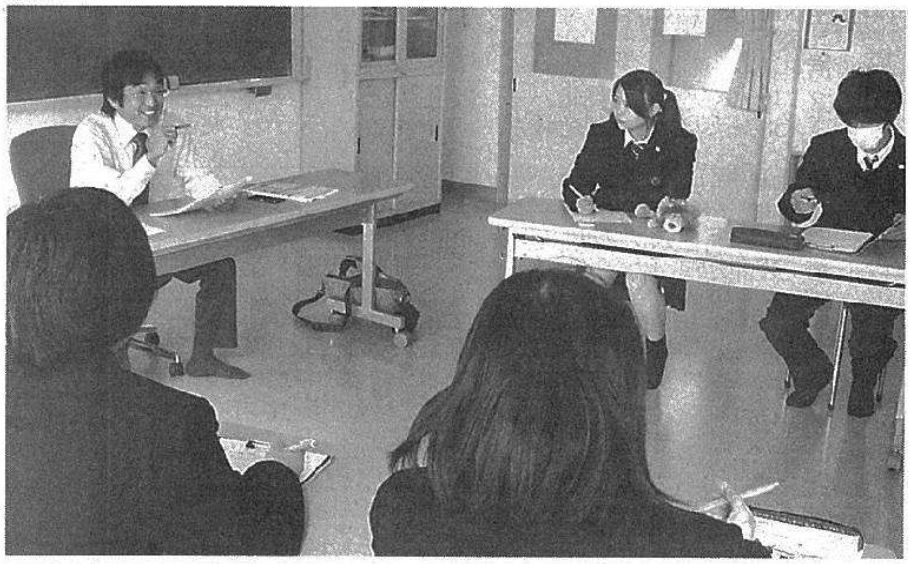
セミナーは1、2年生を対象とし、ことしで8年目。高校生活の早い段階で就職への意識を高め、生徒と職業とのマッチングを図る狙いがある。昨年、世界各地のＲＣでつくる国際ロータリー（ＲＩ）から「意義ある業績賞」として表彰された。

講師は、会員と、会員が経営する事業所の計11人。職種は医療や建設業など多種多様で、生徒約125人をそれぞれの希望を踏まえて各講座に割り振った。

このうち、あんしん不動産（大崎市古川）の檜野和久代表取締役は、不動産の営業について講話。「客が不要なものを無理やり押し売りしてはだめ。何を求めているかを聞くことが重要」と述べた。

職業選択については「なるべく早く何に興味があるかを明確にして知識を深めて。嫌々で仕事をしても長続きしない」とアドバイス。参加した生徒は真剣な表情で話を聞いていた。

2年の酒井佑弥君(17)は「不動産業はあまり客の要望を聞いてこないイメージだったので、印象が変わった」と話していた。

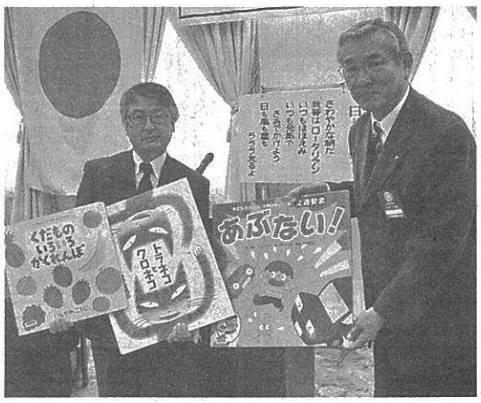


大崎中央高で行われた古川東ＲＣのキャリアセミナー

大崎タイムス〔平成28年11月10日(木)〕

大型絵本と紙芝居寄贈

古川東ＲＣ 大崎市図書館へ



田口館長に絵本を手渡す氏家会長(右)

古川東ロータリークラブ(古川東ＲＣ、氏家英喜会長)は1日、大崎市図書館へ大型絵本など計11冊(約10万円相当)を寄贈した。

古川東ＲＣは、青少年の健全育成や読書の推進などを目的に、1982年度から毎年、大型絵本などを寄贈している。今回で、これまで寄贈した本は総額約246万円分に上るという。

寄贈したのは、「くだものいろいろかくれんぼ」「きょうりゅうのおおきさ」などの絵本と、大型紙芝居「じごくのそうべえ(前編、後編)」。それぞれ価格は税別で5000円～1万3000円。

贈呈式は、大崎市古川の芙蓉閣で行われた例会の席上で実施。氏家会長が市図書館の田口新一館長に絵本を手渡した。

来年には新図書館(市図書館等複合施設)が開館予定。氏家会長は「多くの子どもたちに本を読んでもらいたい」と話していた。

大崎タイムス〔平成28年9月23日(金)〕

酒造資料館や「山居倉庫」見学

古川優法会 山形県酒田市で視察研修

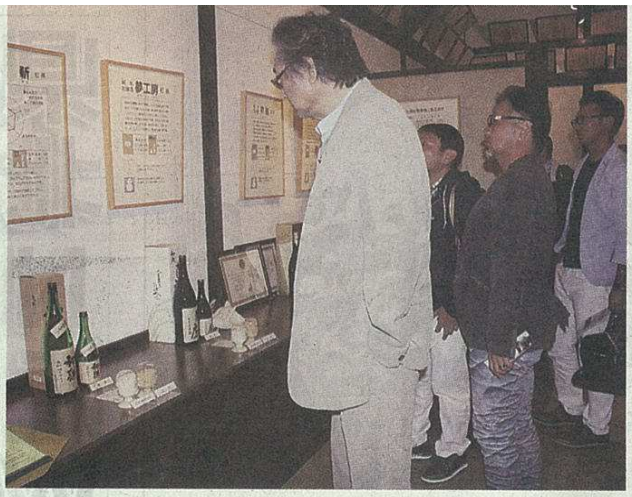
古川優法会（皆川清一会長）の視察研修が20日、行われた。会員企業などから計17人が参加し、山形県酒田市の蔵元を訪れ、日本酒の試飲や資料館の見学で現地の歴史や文化を学んだ。

蔵元は、1893(明治26)年に創業した「東北銘醸」。敷地内にある酒造資料館では、酒の製造過程や精米前後のコメの成分比較といった資料、酒造好適米の稲穂などが展示され、参加者は興味深そうに見入っていた。

同社の看板商品ブランド「初孫」約50種類のうち、9種類を試飲。切れ味のよい辛口の純米酒「魔斬(まぎり)」、フルーティーな香りの純米吟醸酒「秋あがり」などを次々と味わい、気に入った銘柄を購入した。

同市のシンボルでもある、明治時代に建てられた米保管庫「山居倉庫」も訪れ、外観を見学。倉庫を改修した和食料理店で地元米「つや姫」や海の幸に舌鼓を打ち、建物内の観光物産館で買い物を楽しんだ。

最後は、酒田港近くの「さかた海鮮市場」へ。家族や友人らへのお土産として、日本海の新鮮な魚や加工品を買い求めた。



敷地内にある酒造資料館を見学



お土産に酒田の海の幸を購入



東北銘醸の日本酒「初孫」ブランドを試飲

大崎タイムス〔平成28年9月8日(木)〕

原材料は大崎産スギ

市にテーブルとチェア寄贈

グランツ

大崎市古川荒谷の総合物流業、グランツ（江種雅彦代表取締役）は1日、同市産スギを原材料としたテーブルとアームチェア4脚のセットと、県産ヒノキで作った担架兼用ベンチ1台（計100万円相当）を同市に寄贈した。

県産ヒノキのベンチも

ことしは同市誕生10周年で、グランツ設立40周年にも当たることから、「大崎市に恩返ししたい」と考えイトーキ（本社・大阪市、平井嘉朗代表取締役社長）に製造を依頼した。グランツはイトーキの代理店。

イトーキは、国産材でデザイン性の高い家具などを作り、オフィスや都市部に取り入れることで資源循環を図る取り組みを2010年から実施。東日本大震災被災木材の家具への再生に昨年3月までの取り組むなど宮城県の復興にも力を入れており、県の「みやぎ森林・林業の震災復興プラン」（11～20年度）に基づき県産材を使ったロビー・ラウンジ家具シリーズ「パッセジャータ」も展開する。



伊藤市長に目録を手渡す高橋会長（右）

今回寄贈したテーブルとアームチェアのセットは、グッドデザイン賞特別賞などの受賞歴を持つ榎本文夫さん（駒澤女子大教授）がデザインしたもので、曲線を生かした作りが特長。大崎市産スギは「市と隣接する秋田県の秋田杉とほぼ変わらず、木目が細かく良質」という。

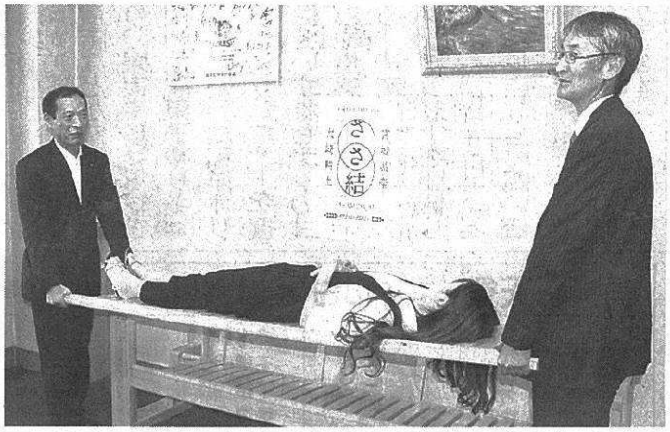
一方のベンチは、5人程度が座っても十分な広さがある。座面と背もたれは取り外すことが可能で、どちらも担架として使うことができる。

この日は高橋和夫会長や江種代表取締役、イトーキ営業本部東日本支社の柏﨑寛東北営業推進室長らが市役所を訪問。高橋会長と古川東ロータリークラブの仲間で、市との仲介役となった古川土地の早坂竜太社長も同行。高橋会長が伊藤康志市長に目録を手渡し、江種代表取締役が「市民の皆さんに喜んで使ってもらえればうれしい」と語った。



大崎市産スギを使ったアームチェアの座り心地を確かめる伊藤市長

伊藤市長は「（チェアやベンチの）座り心地は最高。テーブルを含め素晴らしい品を寄贈していただいた」と感謝し、「テーブルとチェアは新図書館（来年7月開館予定）、ベンチは市長応接室で活用し、地元木材のPRにも努めたい」と話していた。



県産ヒノキのベンチが担架になることを紹介する江種代表取締役（右）ら

大崎タイムス〔平成28年9月3日(土)〕

首都圏大崎連協

10周年記念事業に協力を

正副会長が市長表敬し要請



10周年記念事業などについて伊藤市長と意見を交わす佐々木会長(左から2人目)ら

首都圏大崎連絡協議会の佐々木欽三会長(大崎市田尻出身、おおさき宝大使)と草刈文幸副会長(同市三本木出身、同)が8月26日、大崎市へ帰郷して伊藤康志市長を表敬、パネルディスカッションなど協議会設立10周年記念事業への協力を要請した。市と同協議会の窓口役である早坂竜太顧問(古川土地社長)も同行した。

同協議会は、大崎市が関係する在京組織の役員たちが、市誕生から約2年後の2008年2月に立ち上げた。同市出身者や同市の支援者らでつくる「大崎ネットクラブ」(11年3月設立)との合同総会を毎年東京で開いている。

佐々木会長は「市がやりたいと考えていてもやりにくいことを協議会で手伝いたい」といい、パネルディスカッション「(仮題)20万都市に向けて、在京大崎会は何をすべきか」を来年3月18日、同市の姉妹都市、東京都台東区にある上野グリーンパークで総会に併せ開催予定であることを説明。伊藤市長にもパネリストとして参加するよう要請し、「地元で再度開催することも検討したい」と述べた。

また、同市出身者と家族、大崎ネットクラブ会員らを〝(仮称)第2市民〟と捉え、「在京大崎市民の会」を発足させ、同市へふるさと納税する環境を整えることを提案。地場食材提供、市内各施設の優先的な利用、ふるさとへの無料直行便新設なども提言した。JR古川駅が大崎市であることが分かるよう「大崎古川駅」に改称することや、ブランド商品開発の重要さも説いた。

草刈副会長も「大崎市誕生10周年なので、協議会でも10周年記念誌発刊を考えている」と説明した。

伊藤市長は、市の10周年記念事業補助金があることを紹介した上で、「たくさんの良い提案をいただいた。興味深い内容もあるので、パネルディスカッションには必ず行きたい」と約束した。

大崎タイムス〔平成28年8月30日(火)〕

ふるさと大崎に100万円

伊藤さん(元東京県人会連合会会長)が寄付

「東京宮城県人会連合会」元会長で、大崎市の観光大使「おおさき宝大使」などを務める同市古川保柳出身の会社役員、伊藤長市さん(87)=東京都渋谷区=は25日、「ふるさと納税」制度を活用し、同市へ100万円を寄付した。

伊藤さんは、加美農蚕学校(現加美農業高)を卒業し、宮城や北海道で働いた後に上京。夜間大学で勉強しながら建築士の資格も取得し、建築会社「丸伊工務店」(同区)を設立し、65歳まで社長を務めた。

古川地域出身者の在京組織「東京古川会」は会の設立時から本年度総会で退任するまで20年間、「東京宮城県人会連合会」で16年間、それぞれ会長を歴任。現在は両会および「首都圏大崎連絡協議会」の顧問として、ふるさとにエールを送り続けている。

市役所を訪れた伊藤さんは「ふるさとがあるから今の自分がある」といい、「まちおこしには若い人のエネルギーが必要。(寄付金は)人を育てることに役立ててもらえればうれしい」と語った。伊藤康志市長は「いつもふるさとを気にとめていただき、大変ありがたい」と感謝していた。

◇　◇　◇

東京古川会は、創立20周年記念の総会及び懇親会を11月23日、大崎市の姉妹都市、東京都台東区にある上野グリーンパークで開く。伊藤さんは同日、首都圏大崎連絡協議会の早坂竜太顧問(古川土地社長)も訪ね総会での講演を要請、早坂顧問も快諾した。



伊藤市長に寄付金を手渡す伊藤長市さん(右)

大崎タイムス〔平成28年8月20日(土)〕

新聞定価　月ぎめ 2,160円（税込）1部売り 80円（税込）　昭和22年5月12日第三種郵便物認可　（日刊）大 崎 タ イ ム ス　2016年（平成28年）8月20日（土曜日）(6)

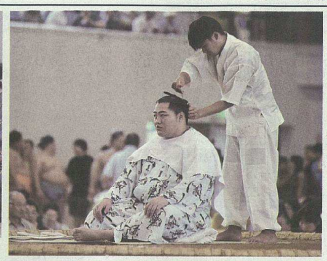
古川総合体育館に掲げられた大崎場所ののぼり





不知火型の横綱土俵入りをする白鵬（右）と日馬富士





髪結いを実演する床山の床風。モデルは遠藤

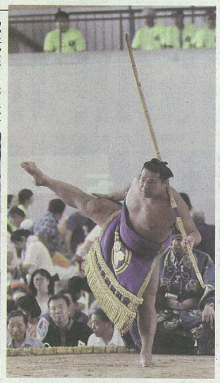
3000人が力士に歓声

8年ぶり大相撲「大崎場所」

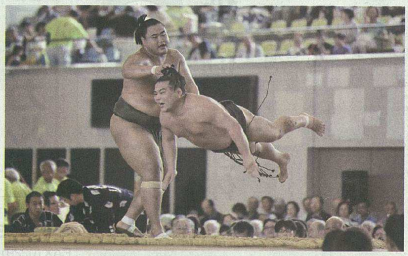
大崎市誕生10周年記念

大相撲の夏巡業「大崎場所」が18日、大崎市古川総合体育館で開かれた。大崎市誕生10周年記念事業の一環として企画され、市の観光大使「おおさき宝大使」を務める横綱白鵬らが力強い取組を見せた。このほか横綱の綱締め実演や「初切」なども行われ、市内外の相撲ファン約3000人が相撲文化を堪能した。大崎場所を写真で振り返る。

カメラアングル



弓取式をする序二段の服ノ富士



禁じ手を面白おかしく紹介した「初切」



両横綱の取り組みは見応えのある一番に。結果は日馬富士の勝ち



佐田の海（左）が蒼国来を豪快にうっちゃる



あいさつする実行委名誉顧問の伊藤康志市長（右）と大沼悦子実行委会長



「おおさき宝大使」の白鵬がモデルとなり、横綱の綱締め実演も



好評だった向日葵給食センターの「横綱弁当」



幕内力士たちの土俵入り

おことわり　「疾風伝遙かに・平成の大崎氏紀行」は31日付6面に掲載します。



ちびっ子たちが人気力士たちに挑戦



大崎タイムス社も懸賞を出した



サインに応じる関脇魁聖

事業内容
創業 昭和47年
株式会社 古川土地
不動産事業部　建設事業部
売買　賃貸　アパマンショップ
●宅地分譲 販売
●建売分譲 販売
●マンション分譲 販売
●不動産各種仲介・代理（住宅地、中古住宅、商工業用地等）
その他
●マンション管理士事務所（管理組合からの各種相談等）
●アパート
●マンション
●貸 家
●店・舗
●事務所
●駐車場
●事業用倉庫
仲介・管理
建築　土木
●設計・監理
●パナソニック新築住宅工法 テクノストラクチャーの家
●鉄筋コンクリート造 鉄骨造・木造各種建築工事
●店舗・事務所等 各種建築工事
●各種増改築工事
●各種解体工事
●宅地造成工事
●下水道工事
●とび
●舗装工事
●その他各種土木工事
官公庁・民間事業



■分譲マンション（会社企画の安心設計）
マンション分譲土地及び販売代理



■アパマンショップ 古川駅前店
「お部屋探しはアパマンショップ」をお客様にみんなで頒値っています



■パナソニック新築住宅工法 テクノストラクチャーの家
すべての家に最新IAV構造計算（各棟毎作成）、独自の自社製造設計システムでムーブ・イン後アフターシミュレーションを実施



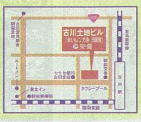
●PFI事業の受託
（民間の資金とノウハウを活用した社会資本の整備を行う時代に先駆けた事業）

不動産事業部と建設事業部の総合力を結集した事業



●区画整理事業の一括業務代行受託
（区画整理事業の資金を立替え、設計・申請等工事及び事業にかかる業務を一括して代行する方式）

株式会社 古川土地
FURUKAWA-TOCHI
代表取締役 早 坂 竜 太
■本　社／大崎市古川駅前大通2丁目6番16号　TEL.0229-23-8484（不動産事業部）
■建設事業部／大崎市古川鹿ヶ埣字新江北125番地1　TEL.0229-23-1192



残暑お見舞い申し上げます

祝 大崎市誕生 10周年
大相撲 大崎場所 大盛況打止



スマートコートは「エコをシェアする街」。
テクノストラクチャーのスマートコートは
時代を超えて一世代でエコを実践しシェアしてクアクセにかしこく暮らす街です。
全国で累計50,000棟の実績!
Panasonic パナソニック株式会社
テクノストラクチャーの家
（パッシブデザイン）自然の力を取り入れるエコ
（アクティブデザイン）エネルギーをかしこくエコ
（コミュニティーデザイン）環境に取り組む街づくり
Passive　Active　Community
エコをシェアする街

主な事業実績（JVの一例）
①大崎市民病院本院建設事業
②大崎市古川災害公営住宅整備事業（古川駅東住宅）
③大崎市古川災害公営住宅整備事業（旧古川ゴールデンパレス跡地）
④旧大崎市民病院本院解体工事及び改修工事（現在施行中）



大崎タイムス〔平成28年8月5日(金)〕

味もボリュームも〝横綱級〟

大相撲大崎場所

実行委が「横綱弁当」試食

地場産食材もふんだんに



大崎場所で提供される「横綱弁当」

大相撲の夏巡業「大崎場所」(18日、大崎市古川総合体育館、大崎タイムス社後援)を前に、同場所実行委員会は1日、予約客に提供する「横綱弁当」の試食会を行った。試食した人たちからは「ボリュームがあり、とてもおいしい」「地場産食材を使っているのが良い」と評価する声が聞かれた。

今回の弁当を手がけるのは、向日葵給食センター(大崎市古川宮内、伊藤千美子店長)。

実行委は当初、同センターを含む複数の市内仕出し弁当業者への発注を検討した。しかし、食中毒対策を万全にすることなどを目的に、酒造会社「一ノ蔵」(同市松山)が勧進元となり開催した2008年8月の大崎場所でも実績がある同センターを選定した。

弁当の内容は、サバのみそ漬け焼き、エビフライ、ホタテマヨネーズ焼き、厚焼き卵、高野豆腐やタケノコなどの旨煮、ナスの甘味噌かけ、中華サラダ、ふんわり天のあんかけ、ナポリタン、プチトマト、八幡巻、オレンジ、白飯(ひとめぼれ)。

ひとめぼれ、みそ、インゲン、ナス、キュウリ、タマネギ、プチトマトなどは地元食材を使った。包み紙も、相撲の浮世絵を印刷したものとした。弁当の他に、パンフレット、相撲土産、地酒もセットにし、税込み3000円で注文を受け付けた。

第5回実行委に先立ち行われた試食会では、出席した委員や顧問ら全員で弁当を味わった。名誉顧問の伊藤康志市長は「横綱の名にふさわしいボリュームとメニュー。大崎の食材もたくさん使ってもらった。大好評は間違いない」と絶賛。大沼悦子会長も「手づくりの向日葵給食センターらしい内容。皆さんに満足してもらえる弁当だと思う」と話していた。



横綱弁当を試食する伊藤市長(左)、大沼会長(中央)ら

同弁当セットの予約は締め切り、1445個の注文があった。予約以外の販売用はない。食中毒を防ぐため、体育館敷地内で販売されるもの以外の飲食物持ち込みは禁止する。

◇　◇　◇

大崎場所のチケットは1日現在で9割近くが売れた。完売まで市誕生10周年記念事業推進協議会(市政策課内)で販売を継続する。問い合わせは同協議会へ。電話0229(23)2129。

大崎タイムス〔平成28年7月18日(月)〕

すきです三本木

故郷懐かしみ交流

二階堂トクヨ(日本女子体大創設者)〝朝ドラ〟運動も





あいさつする相沢会長(右)と二階堂トクヨに教えを受けた高梨さん(左)

関東圏に住む大崎市三本木地域出身者らで組織する「すきです三本木」(相沢昭男会長)は2日、都内で「第7回総会・懇親会」を開いた。会員や来賓、古川出身で世界3階級制覇を成し遂げた女子プロボクシング、藤岡奈穂子選手ら約70人が参加し、故郷を懐かしみ、交流を深めた。

同会は2010年に設立され、ことしで7年目に入った。同地域出身者だけでなく、「三本木が好き」「応援したい」という人なら誰でも入ることができる。毎年総会を通じて親睦を深めたり、イベントPRに協力したりしている。

総会では、相沢会長や伊藤康志市長、太田良一市三本木総合支所長らがあいさつ。

また、設立当初から関わっている同会顧問の早坂竜太古川土地代表取締役社長が、第69代横綱白鵬関(おおさき宝大使)との交流」と題して講演を行い、白鵬関と大崎のつながりや、テレビでは分からない白鵬関の一面などを紹介したほか、大崎のふるさと納税への協力も呼びかけた。

さらに、同会顧問で元NHKプロデューサーの佐々木欽三さんが、三本木出身で日本女子体育大学の創設者、故・二階堂トクヨをNHK連続テレビ小説の題材にする運動を始めた、と報告した。二階堂トクヨの教え子である高梨香代子さん(千葉県)も訪れ、「先生はスポーツ界を牽引し、日本の女子体育を広めた。地元の人が盛り上げ、〝朝ドラ〟の題材になってほしい」と期待を述べた。

総会後は、引き続き懇親会が行われ、会員同士、懐かしい話に花を咲かせた。プロの民謡歌手などが訪れ、三本木地域のために作った「ひまわり音頭」を歌ったり踊ったりし、会場内は盛り上がった。



白鵬関との交流を話した早坂古川土地代表取締役



藤岡選手(中央)も訪れて懇親会を盛り上げた

大相撲「大崎場所」

チケットまだ買えます

「横綱弁当セット」予約は15日まで

大崎場所のちらし



大相撲の夏巡業「大崎場所」(8月18日、大崎市古川総合体育館)のチケット販売が、当面継続されることになった。タマリ席Sなどは完売したが、より多くの市民に大相撲を楽しんでもらうため、若干残りがある席の販売を続ける。相撲土産、地酒、パンフレットの詰め合わせ「横綱弁当セット」(税込み3000円)予約は今月15日まで受け付ける。

同場所実行委員会(大沼悦子会長)事務局によると、売り切れたのはタマリ席S、同A、いす席S、2階指定席の4種類。いす席A、車いす席、ステージいす席、2階自由席も残りわずかで、現在の売れ行きだと近く完売する見通し。

一方、タマリ席B、同C、ペアマス席A、同Bは「まだ余裕があり、特に狙い目」(実行委)という。座席の種類を問わず、同市観光大使「おおさき宝大使」の横綱白鵬関の手形色紙がもらえる。タマリ席、ペアマス席、ステージペアマス席は特製座布団も付く。

これまでは古川総合体育館に特設窓口を設け販売したが、今月から大崎市誕生10周年記念事業推進協議会事務局の政策課(市役所西庁舎4階)に変更した。電話予約することも可能で、古川地域以外の人が予約時に希望すれば各総合支所でも代金と引き換えられる。

実行委チケット部会によると、両親や祖父母へプレゼントする人、夏休み中の孫との思い出づくりをしたい高齢者で購入する人が多く、お中元としてまとめ買いする企業も。また、近隣市町村の購入者も当初見込みより多く、相撲好き女性ツ"スモジョ"も大勢購入に来たという。

「東日本大震災の後、被災者支援で大崎市入りし、その後も継続的に訪れてくれる白鵬関から宮城野部屋に恩返しするつもりで購入した」という人もいた」と早坂竜太部会長(実行委副会長)。「両国国技館で観戦する場合と比べ、新幹線往復や宿泊がかからず、約3万円安い。ぜひ多くの方に見に来てほしい」と話していた。

チケット料金(消費税込み)は次の通り。

◇1階▽タマリ席B＝1万2000円▽同C＝1万1000円▽ペアマス席A＝2人分2万円▽同B＝同1万8000円▽イス席A＝7000円▽車椅子席＝1万円▽ステージペアマス席＝2人分1万6000円▽ステージイス席＝6000円◇2階▽自由席＝大人3000円、小学生以下1500円

◇　◇　◇

大崎場所会場には、体育館敷地内で販売されるもの以外の飲食物持ち込みが禁止される。残暑が厳しい時期の開催となるため、食中毒防止のための措置。

横綱弁当セットは、チケット購入者の大半が予約している。準備の都合上、15日で受け付けを締め切る。その後は受け付けられず、当日販売もしないため、事務局は「チケット購入に合わせ、早めに予約を」と呼びかけている。

チケットや横綱弁当セットの予約、問い合わせは事務局へ。電話0229(23)2129。

河北新報〔平成28年7月8日(木)〕

仙台市体育館（太白区）で8月12、13の両日開かれる大相撲夏巡業の仙台場所（主催・河北新報社、実行委員会、ぴあ、仙台放送）には、今月10日初日の名古屋場所で活躍が予想される力士も大勢登場します。

名古屋場所では、2場所連続13勝を挙げて綱とりに挑む大関稀勢の里、史上3人目の通算1000勝まであと13勝に迫った横綱白鵬が注目の的。このほか、初のブラジル出身関脇となった魁聖、同じく初のジョージア出身関脇に昇進した栃ノ心ら人気を集める若手力士たちも、仙台場所の土俵上で勇姿を披露します。

今年の仙台場所は、昨年より1日増えて2日間の開催。

大相撲夏巡業仙台場所 8月12、13日

注目の力士 勇姿披露

力士たちの迫力ある取組に加え、初切、相撲甚句、太鼓打分など、本場所では実演しない「お好み」（催し物）も夏巡業の見どころです。

入場料はイスA席8500円ほか。入場券はチケットぴあ、セブンイレブン、サークルKサンクス、仙台市内のぴあ店舗で販売中。河北チケットセンターでは2階イスA席（ファミリーイスA席）のみ販売。弁当、パンフレット、土産などが事前予約できる特別セットプランもあります。問い合わせ先は仙台場所事務局（仙台放送事業部内）022（268）2174。

浜風親方

力強く復興支援



大相撲夏巡業の仙台場所開催に向けて、準備、運営に携わる日本相撲協会事業部の浜風親方（42）＝元幕内五城楼、仙台市出身＝がメッセージを寄せました。

◇

熊本地震で被害を受けた方々にお見舞いを申し上げます。東北も東日本大震災からの復興が道半ばですが、大相撲を通じて、被災された方々を元気づけられたらと願っています。昨年の仙台場所には、地元の皆さまにも奮ってご来場いただき、多くの方が笑顔を見せてくださいました。今年もここ仙台から元気を発信し、義援金などで復興を支援していきたいと考えております。

建設新聞〔平成28年6月6日(月)〕

大崎市

七日町西地区の再開発事業

再開発推進協議会が発足

大崎市が中心市街地復興まちづくり計画の一環として整備を計画している古川七日再開発事業の早期具体化に向け、2日に地元地権者を中心とした「古川七日町西地区再開発推進協議会」が発足した。

今回の推進協議会は、大崎市が昨年度から調査を進めている「古川七日町西地区再開発事業」の早期具体化を図るため、地元地権者と主体的に関わり、調査業務の検証、まちづくり勉強会、準備組合設立の検討などを進めるため発足したもの。役員は土地の所有者、借地権を有する7人で構成されており、会長には、古川七日町中央通り商店街振興組合理事長を務める佐々木愛一氏が就任した。

再開発事業の全体計画は、昨年3月に策定された「七日町周辺地区グランドデザイン」で示された古川七日町商店街通り約300㍍区間に4棟の複合ビルを建設。市役所に近い西側から、交流機能と居住機能の複合ビル、子育て支援機能と居住機能の複合ビル、福祉機能集約ビル、商業機能と業務機能の複合ビル福祉をそれぞれ整備する。

初弾として、古川七日町西地区に地域交流施設や店舗・事務所・居住用マンションなどで構成された、交流機能と居住機能の複合ビルの整備を進める方針で、事業期間は2016年度から19年度までを予定。事業費は約50億円を見込んでいる。昨年度には現況調査、事業フレーム検討、事業推進業務を山下設計に委託し進めてきた。本年度からは、基本計画の策定を進める。

今後のスケジュールは7月上旬に検討会などを開く予定だ。

建設新聞〔平成28年4月6日(水)〕

大崎市

5月にも基本計画を委託

七日町西街区の再開発事業

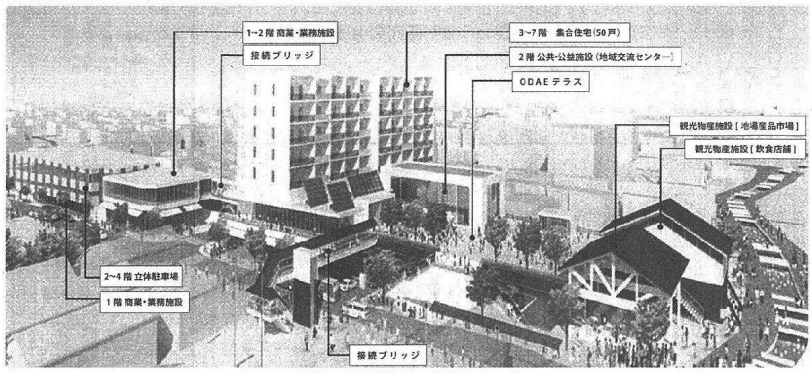
大崎市は、中心市街地復興まちづくり計画の一環として整備を計画している「古川七日町西街区再開発事業」について、近くまちづくり協議会を発足するほか、早期事業化に向けて5月ごろにも基本計画策定業務を委託する。

同市では、2013年3月に市役所からJR古川駅前周辺までを含む中心部約94㌶を対象とする「中心市街地復興まちづくり計画」を策定。計画には市街地再生のため、老朽化している本庁舎の建て替えや古川消防署の移転、新図書館の建設などハード事業を盛り込んでいる。この計画に基づき、昨年3月には「七日町商店街周辺地区グランドデザイン」を策定し現在、空洞化が進行している古川七日町商店街通り約300㍍区間に4棟の複合ビルの建設を計画。市役所に近い西側から、交流機能と居住機能の複合ビル、子育て支援機能と居住機能の複合ビル、福祉機能集約ビル、商業機能と業務機能の複合ビルをそれぞれ建設する考え。

初弾は、古川七日町西街区に地域交流施設や店舗・事務所・居住用マンションなどで構成された交流機能と居住機能の複合ビルの整備を進める計画で、事業期間は16年度から19年度までを予定。事業費は約50億円を見込んでおり、昨年度には現況調査、事業フレーム検討および事業推進業務を山下設計に委託し進めてきた。

本年度からは、地域区長などのメンバーで構成したまちづくり協議会を発足するほか、現況調査などの結果を基に早期具体化に向けて基本計画の策定を進める。

なお、市の本年度当初予算には同基本計画策定業務費と測量調査費として3022万3000円を確保している。



古川七日町西街区の完成イメージ

大崎タイムス〔平成28年3月21日(月)〕

100人参加し旧交温める

大崎市関係在京2団体 台東区で合同総会

大崎市関係の在京組織役員らで構成する「首都圏大崎連絡協議会」（佐々木欽三会長）と、同市出身者や支援者でつくる「大崎ネットクラブ」（同）は12日、合同の第9回総会を同市の姉妹都市、東京都台東区の上野グリーンパークで開いた。両会員、市の観光大使「おおさき宝大使」、来賓など約100人が参加し、旧交を温めた。

東日本大震災犠牲者や物故会員らに黙とうをささげた後の議事で、古川工業高関東同窓会の加藤昭夫会長を副会長、東京古川会の菊地務事務局長（東京古川会）と在京田尻会の佐々木英明幹事をそれぞれ理事に選任することなどを承認。伊藤康志市長代理の松ケ根典雄市民協働推進部長、伊藤信太郎衆院議員（宮城4区）、県東京事務所の吉田計所長、西島久雄台東区長が祝辞を述べた。

また、東日本大震災後に同市などで復興応援コンサートを開いたソプラノ歌手、宮良多鶴子さんがゲスト出演し、歌声を披露した。

参加者には、早坂竜太顧問（古川土地社長）がまとめた、大崎タイムスなど大崎市関連新聞記事を収録した冊子が配られた。懇親会では古里の味ずんだもちなどを食べながら楽しいひとときを過ごした。

同協議会は、各地域（旧市町）単位の在京組織、高校や中学の関東同窓会の役員などが2008年設立。11年発足した大崎ネットクラブと合同で総会を行っている。



歌声を披露する宮良さん



あいさつする佐々木会長



古川東大崎地区出身の歌手、渡辺星幸さんも熱唱



伊藤衆院議員も出席。父・宗一郎氏が旧制古川中（現古川高）の卒業生



前副市長の植田雅俊さんも出席。前年度総会で顧問に選任された



堀江敏正顧問（左、旧田尻町長）、早坂竜太顧問（中央、古川土地社長）とめぐみ夫人



新役員3人を紹介する草刈文幸副会長